



るもい風土資産カード

天売島の海鳥繁殖地

約一〇〇万羽の海鳥が乱舞する
国内屈指の『海鳥の楽園』

羽幌町の西の沖合約30kmに浮かぶ周囲約12kmの小島、天売島。高さ50～百数十メートルに及ぶ断崖絶壁が続く北西海岸は、海鳥の繁殖地として、国の天然記念物に指定されています。最西端にある赤岩や屏風岩、カブト岩などが浮かぶその場所は海鳥コロニー（集団営巣地）と呼ばれる“海鳥の楽園”。天売島の人口約280人（令和3年1月1日現在）に対し、8種、約100万羽の海鳥が繁殖する世界的にも珍しい島として知られています。

天売島で繁殖する海鳥は、国内では絶滅の危機に瀕しているウミガラス（オロロン鳥）や世界的にも希少なケイマフリをはじめ、ウトウ、ウミウ、ウミネコ、ヒメウ、ウミスズメ、オオセグロカモメの8種類。このうち、最も繁殖数が多いのは、地中の穴で子育てをするウトウで、ウミガラス、ヒメウ、ウミスズメの3種は国内では天売島だけで繁殖が確認されています。約80万羽とも言われるウトウが夕暮れ時、一斉に小魚をくわえて帰巢する光景は圧巻で、ウトウウォッチングツアーも行われています。

姿かたちがペンギンに似たウミガラスは海に面した断崖の棚に群れを作って集団営巣する大型の海鳥で、昭和13年（1938年）には約4万羽が生息していましたが、オオセグロカモメなど天敵の増加や流し網漁の混獲などで激減し、平成22年（2010年）にはつがいを含め19羽が確認されるだけになりました。このため、島の人々は島を代表するウミガラス復活のため、大型デコイやミラーボックスを設置するなど回復作戦を行い、国内唯一の繁殖地としての環境を後世に伝えるための努力を続け、令和元年（2019年）には62羽が確認されるまでに回復しています。

五感で感じる！ 風土資産の魅力



知る

4～8月にかけて文字どおり海鳥の楽園となる天売島ですが、6～7月の最盛期（繁殖期）における大群の乱舞は壮観です。これらの海鳥の多くは北方の孤島で繁殖するのが普通で、このように集落や漁港を持つ小島に大集団で繁殖期をつくることは、極めてめずらしいと言われています。



赤岩

見どころ

海鳥の繁殖が観察できるのは4月から8月まで。繁殖の最盛期は6～7月で、大群の乱舞は壮観の一言です。島内の観察スポットは赤岩展望台、観音崎展望台、海鳥観察舎などで、海鳥観察舎では50倍の無料望遠鏡を設置しています。

ポイント

天売島へのアクセスは羽幌港から船で90分（高速船は60分）。周囲約12kmの島内は徒歩約3時間で周遊できます。レンタサイクルやレンタルバイクも人気があり、人間と自然、海鳥が共生する島の魅力が体感できます。

■ 基本情報 (R3. 5)

文化財指定：天然記念物
指定年月日：昭和13年8月8日